

友だちと考えを伝え合いながら自分の考えを深め、喜んで表現する子ども

～第2学年 国語科「お話の作者になろう」の実践を通して～

三条市立上林小学校
教諭 阿部 道子

1 目指した子どもの姿

当校の研修テーマ「友だちとかかわりながら、意欲的に学ぶ子どもの育成」との関連から、本単元では、「友達と考えを伝え合いながら自分の考えを深め、喜んで表現する子ども」を目指して実践を行った。本単元で身に付ける力は、次の3つである。

- 絵を見て、経験したことや想像したことなどから書くことを決め、「初め」「中」「終わり」のまとまりのある短い物語を書くこと
- 書いたお話を読み返し、誤字、脱字を直したり、句読点、助詞、かぎの使い方を正したりすること
- 作った物語を交換して読み合い、感想を交流すること

2 具体的な手立てと子どもの変容

(1) お話作りに興味をもたせる導入

本単元の導入では、今までに学習してきた「くじらぐも」(1年)「ふきのとう」「スイミー」「スーホの白い馬」(2年)などのお話クイズを行った。

これによって、お話には「作者がいること」や「大変な出来事が起きていること」、「中」の書き出しには秘密があることに気付くことができた。また、「初め」「中」「終わり」それぞれの書き出し方の参考にする姿も見られた。

(2) 相手意識を持たせる

お話が完成した後、「誰に読んでもらいたいか。」を考えさせた。子どもたちは、4月からいろいろな活動で1年生のリーダーとして活躍してきた。全員が「1年生に読み聞かせをしたい。」という相手意識をもち、「早く1年生に読んであげたい。」と意欲的に学習した。

(3) 既習学習とつなげる

作文指導では、「初め」「中」「終わり」を意識して作文メモを作り、時間や事柄の順序や「」を正しく使って作文を書いてきた。また、既習の物語文「スイミー」と「スーホの白い馬」で、「初め」「中」「終わり」のお話メモを作ってきた。

これらの既習学習によって、子どもたちは「初め」「中」「終わり」の構成を意識し、既習のお話メモを振り返りながら、お話作りに取り組むことができた。

(4) 単元構成の工夫

単元の構成を次のようにしたことによって、お話を想像する楽しさを味わい、「初め」「中」「終わり」の構成を意識して、お話作りに取り組むことができた。

3 終わりに

自学級の子どもたちは、本が大好きである。本単元で、初めて自分が作者になりお話を書いたことによって、益々本が大好きになった。表紙に「題名」と「作者」（自分の名前）があることは、何よりもうれしいということが分かった。「2冊目を作りたい。」と張り切っている子もいる。

今後も、「初め」「中」「終わり」の構成を意識しながら読んだり書いたりすることを通して、表現することの楽しさをたくさん味わえるようにしていきたい。